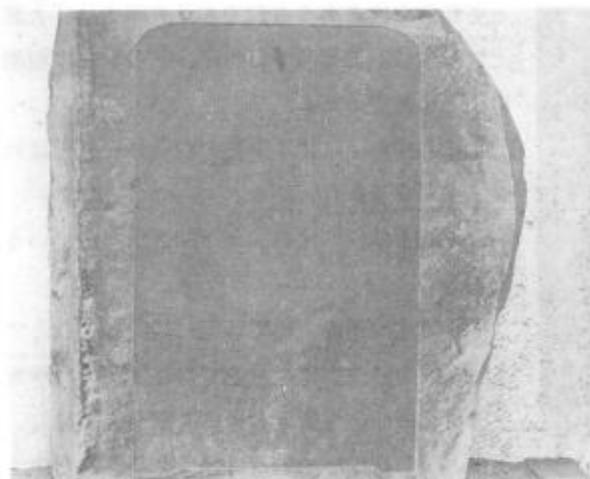


20 鏡ヶ池

伝承地：大通り1、2丁目

参考書籍：6～8



(鏡ヶ池の碑)

鏡が発見されたので、この池を「鏡が池」とよぶようになったという。

ところがある年、大暴風雨があって、周囲の丘が崩れ、池は大方埋まって小さな池となり、花屋敷（映画館）の一隅にわずかにかげをとどめていたが、現在は西武百貨店の南西の壁際に池の由来を記した記念碑が往時を物語るだけである。

宇都宮は、大むかし、池辺郷と呼ばれていた。これは、二荒山神社の南側の旧馬場町一帯に大きな池があったことによる。

この池で、源義経を慕って奥州へ向かう途中、二荒山神社に参詣を思いついた源義経が手を浄めたという。

その時、懐中の鏡が池の中へすべり落ちてしまった。鏡は池の底へ沈み、手も届かない深さであったので、あきらめて去ってしまった。

その後、ここから



21 鎌倉坂

伝承地：山本町

話者：20



(鎌倉坂)

したまま出立してしまったが、不思議なことにそのムチが根を生じ、枝葉を繁らして、大木となり、春ともなれば見事な花を見せてくれたという。

大正初期頃までは、その桜か、あるいは子株か、孫株か、その桜だと言い伝えられた枯木の根株があったということである。

羽黒街道を北上すると田川に鎌倉橋がある。橋の名はかつてここを鎌倉街道が通っていたことを語っている。そしてこの近くには鎌倉坂という地名が残っており、次のような話が伝わっている。

源平の争乱の後、源頼朝が弟の義経討つため軍勢を率いて奥州に向かったおりこの坂道で一休みし、手にした桜のムチをかたわらの地面にさ

